

きみはどんな時にワクワクしますか？思い浮かべるだけで元気になるようなことはありますか？できればこの本をちよつと脇に置いて、少し考えてみてほしい。たくさんあるのならば、紙に書き出してみよう。通いつめた営業先の会社から契約が取れた、その瞬間。接客をしたお客さまが満面の笑みを浮かべてくれた。草野球チームで逆転ホームランを放ち、チームメイトに迎えられるシーン。テストで最高点を取って、それを自分のことのように喜んでくれるお母さんの笑顔。大好きな恋人と南の島でのんびりと過ごすA情景を思い浮かべた人もいるだろうか。

どうだろう？①考えているうちに、さつきより、ほんの少し楽しい気分になってきたんじゃないかな？思わず笑みがこぼれた人もいるかもしれない。そう、これが大切なのです。きみ自身が笑顔になれる瞬間。その瞬間が日々の中にたくさんあれば、人生はもっとすばらしいよね。もし、自分の笑顔が想像しにくいとしたら、大切な人の笑顔を思い浮かべましょう。大切な人はどんな時に微笑んでくれますか？うれしい時？喜んでいる時？そんな彼、彼女の笑顔を見て、きみはどうだろう？なんとなく楽しくて、なんとなくうれしくなって、笑顔になっているんじゃないかな。

(a)、奥さんや子どもが喜ぶこと、笑顔になることを考えてみよう。独身の人も自分が家庭を持った時のことを想像してみてほしい。

「自分の家を持ったら、妻はきつと喜ぶだろうな。毎日せつせと掃除をして、庭にたくさんの花を植えて……」

「子ども部屋をつくってあげると言ったら、子どもたちが大喜びするに違いない。しっかりした勉強机も買ってあげよう」

「どうだろう？ ワクワクしてきたんじゃないかな？ だとしたら、「マイホームを建てる」ことが、きみの夢というわけだ。

「休日は家族全員でワンボックスカーに乗ってドライブに行こう。みんなでワイワイ言いながら、楽しい思い出をつくらう」
そう思ったのならば、「ワンボックスカーを購入する」ことがきみの夢になる。

大切な両親はどうすれば喜んでくれますか？ 彼氏や彼女が微笑むのはどんな時ですか？ 同僚の笑顔のために、きみはどんな人間になるべきですか？ こんなふうに考えていけば、夢はどんどん広がっていくと思う。もちろん、大切な人たちが笑顔になることによつて、きみ自身が笑顔になれることが大前提です。②上司は笑顔になるけれど、そのためにきみが犠牲になり、苦しみにゆがんだ表情になっているとしたら、それは夢とはいえません。あくまで大切なのは、きみ自身が笑顔になること。きみが幸せを感じられることこそが夢だからです。

東京の高円寺に初めての居酒屋をオープンした時の私は、お店が満席の状態を想像するだけでワクワクしていました。四二坪の店に一一〇席。少々、窮屈(きゆうくつ)な店だったけど、満席になると、そのB熱気(ねつき)たるや本当にすごかった。お客さまの声が壁に反響して、店全体がウォンウォンとうなり声を上げているようでした。その中で私は指揮者のようにスタツフに指示を出し、完璧な状態をつくり出すために夢中でした。グラスが空いたらすぐにおかわりを持って行き、空いたお皿はすぐに下げる。厨房では一秒でも早く料理を提供する。まるで戦場です。(b)、目の端々に飛び込んでくるお客さまの笑顔。お酒を酌み交わし、食事を共にしながら語り合う人たちの明るいエネルギー。その空気に包まれた時

「③ああ、オレは幸せだなあ」

と心の底から思えました。(c)、

「よし、また明日もこの状態をつくらう」

と考えました。体は疲れきっているけど、そうイメージするだけで、心がワクワクして、思わず④口元(くちもと)がほころんでしまう。そんな毎日を送っているうちに

「こんなすばらしいシーンをつくり出せる店を世界中に展開できたら、どんなにすばらしいだろう。一〇〇〇店出店すれば、幸せも一〇〇〇倍になるはずだ」
と思うようになったのです。ワクワクすることを考えていたら、それが自然と「夢」になっていったというわけです。

「夢＝思い浮かべるだけでワクワクすること」

これが私の夢の定義です。すごくシンプルでしょ？そして今でも、私の夢はすべて自分がワクワクできること。実際、考えると思わず笑みがこぼれるようなことばかりをしています。

「ワタミが展開する飲食店に来てくださる一日一二万人のお客さまに楽しい時間を過ごしていただくこと」

「介護施設にご入居くださっているおじいちゃん、おばあちゃんの笑顔を見ること」

「郁文館夢学園の生徒たちが夢の実現に向かって毎日楽しく授業を受けている様子」

「カンボジアの子どもたちが募金で建設した学校で、好きなだけ勉強できること」

数えあげたらきりがありません。そのすべてが私の夢で、いくつかの段階をC経(へ)ながらさらに成長しています。でも、それらはすべて、居酒屋の一号店を出した時に「ワクワクすること」をイメージしたところから始まりました。間違っても苦行のようなものを想像しないでほしい。もし、思い浮かべるだけでつらくなるようなら、それは夢なんかじゃない。⑤苦行(くるぎやう)なんてする必要はありません。

私が尊敬する孔子の言葉に、

「これを知る者は、これを好む者に如かず。これを好む者は、これを楽しむ者に如かず」

というものがあります。

「知ることは、好きでいることの深さに及ばない。さらに好きでいることは、それを楽しむことの奥深さには及ばない」

という意味でしょう。⑥私は孔子の言う「 d 」を、「心がワクワクする」と解釈しています。楽しむことほど、奥深く、力強いものはない。まったく同感です。

夢が持てない、となげく必要なんてない。
だって、きみがワクワクすることや元気になれることは、たくさんあるはずだから。
その日常の小さな楽しみを一つひとつ思い出し試してみたい。
そこからきみの夢は広がっていくのだから。

(渡邊美樹 『夢のスイッチ あなたの夢の見つけ方』より)
※出題の都合上、省略・改変した箇所があります。

〈設問〉

問一 〓 線部A～Cの漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問二 () 欄a～cに入る語として、もつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選んで、それぞれ記号で答えなさい。

ア でも イ つまり ウ たとえば エ そして

問三 〓 線部①「考えているうちに、さつきより、ほんの少し楽しい気分になってきたんじゃないかな」とありますが、楽しい気分になる時の具体例として、ふさわしくないものを次のア～エの中から二つ選びなさい。

ア 運動会の徒競走で、一位になった時。
イ 上司や部下のために、犠牲になる時。
ウ テストで、自分だけ満点を取れた時。
エ 苦しみながらも山の頂上を目指す時。

問四 〓 線部②「上司は笑顔になるけれど、そのためにきみが犠牲になり、苦しみにゆがんだ表情になっていくとしたら、それは夢とはいえません」とありますが、筆者は「夢」をどのように定義していますか。文中から十七字でさがし、書き抜いて答えなさい。

問五 〓 線部③『ああ、オレは幸せだなあ』と心の底から思えました」とありますが、筆者はどんな時、自分が幸せだと心の底から思えたのですか。文中の言葉を使って、五十字以内で簡潔に説明しなさい。

問六 〓 線部④「口元がほころんでしまう」とありますが、それを別の言葉で表している部分を文中から七字でさがし、書き抜いて答えなさい。

問七 〓 線部⑤「苦行なんてする必要はありません」とありますが、なぜ苦行をする必要がないのですか。その理由として、もつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 思い浮かべるだけで楽しいこともつらいこともあることが夢なので、楽しいだけでは夢とは言わないから。
イ 思い浮かべると楽しいことだけが頭に出てくるのが夢なので、わざわざ自分から苦しむ必要性はないから。
ウ 思い浮かべた結果世の中のためになることが夢なので、自分だけのためになることは夢とは言わないから。
エ 思い浮かべるだけでワクワクすることが夢なので、思い浮かべてつらくなくなるようなものは夢ではないから。

問八 〓 線部⑥「私は孔子の言う『 d 』を、『心がワクワクする』と解釈しています」とありますが、「 d 」に入る語として、もつともふさわしいものを文中から三字以内でさがし、書き抜いて答えなさい。

問九 この文章から読み取れる筆者の主張としてふさわしくないものを次のア～オの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 自分が笑顔になれる瞬間が、日々の中にたくさんあることが大切である。
イ 上司は笑顔になるが、自分は犠牲になるようなことは、夢とは言わない。
ウ ワクワクすることを考えると、それが自然と夢となっていることもある。
エ 夢を苦行のようなものであると想像することは間違ってもやめてほしい。
オ 夢がない人は日常から目を背けているので、現実と向き合うべきである。

とつぜん、彼がぼくにこう言った。

「宇宙人って、ほんとうにいると思う？」

じつさい、答えるのにしばらく時間がかかった。夜の星がひとみいっぱい反射したようなキラキラした目でぼくを（a）見つめている。ふつうの子どもにはあまりに美しく見えた。火を吹いた飛行機、彼の出現、見たこともない、きみのような記号のあらわれる計算器、彼のへんなアクセントや服装、そのうえ、子どもときている。ふつうの子どもにAヒコウキのそうじゅうなんかできっこない……。

「きみ、ほんとうに宇宙人なの？」（I）

ぼくはおそろおそろ聞いてみた。

「もしそうだとしたら……こわいかい？」

そのとき、はじめて彼が地球の外の世界から来ていることがわかった。少しおどろいた。でも、彼はとてもあたたかいまなざしをしていた。

「じゃ、きみは悪者なの？」

とおずおずと聞いてみた。

B彼は楽しそうに笑って言った。

「たぶん、きみのほうがぼくより少し悪い子だよ」

「どうして？」

「だってきみは地球人だからね」

「じゃ、ほんとうにきみは宇宙人なの？」（II）

「おどろかないでね」

とぼくを安心させるように言いながら、空の星を指さして、

「この宇宙はのちで満ちあふれているんだよ。何百万、何千万という星にひとが住んでいるんだ……たくさんの善良なひとたちが住んでいるんだよ」

①どういうわけか、彼の言葉は、きみような効果をもたらした。

彼の言ったとおり、ほんとうにぼくの目に、何百万、何千万もの宇宙の星の住人たちが“見えてきた”。もう、恐怖心はどこかへ行ってしまった。

彼がほかの星の人間だということを、なんのおどろきもなく、受け入れることに決めた。（b）友好的だし、悪意なんかまったくもってないように思えた。

「でも、どうしてぼくたち地球人のことを悪いひとだと言うの？」（III）

彼はうっとり空を見つめたまま言った。

「なんて美しいんだろう。地球から見た天空は……。この大気があの天空のかがやきや色を生み出しているんだ……」

こんども②ぼくの質問を無視している。

また、なにかふゆかいな気分になってきた。それにぼくを悪い子だと思っている。大まちがいだ。ぼくはこう見えても、大きくなったら探検家になって、悪いひとをこらしめようと思っているんだ。

「あれがプレアデス……。すばらしい文明のある星だ」

「ここだって、みんながみんな悪いひとばかりじゃないよ……」

「あの星を見てごらん。いま見えているのは百万年前のものだ。あの星はいまはもう存在していないんだ……」

「地球だって、みんながみんな悪者じゃないって、さつきから言っているだろう。どうしてぼくたち地球のひとのことを、みな悪だなんて言うんだい？」（IV）

③そんなことは言っていないよ」

空を見つづけたまま目をかがやかせてこう言った。

「まるで奇跡だ……」

「さつき、言ったよ!!」

ぼくがあまりに大声で言ったので、彼はまるで夢からさめたように、ハッとわれに返った。

これじゃ、まるでぼくのいとおなじだ。好きなCカシユのブロマイドを見ているときといったら、ほんとうに夢中で話にならない。

彼はぼくをじっと見たけれど、少しもおこっているような感じではなかった。

「地球人はたいいてい、ほかの星のひとほどには善良じゃないって、言いたかったんだよ」

「ほうら、やっぱり地球人は、この宇宙の中で最悪だと言っているじゃない」

すると、彼はぼくのかみをなでながら、やさしく笑って言った。

「そんなこと、言っていないよ」

そのときは、ほんとうにムツときた。④頭をふって彼の手をはらいのけた。ぼくを、まるでずっと年下のバカみたいにあつかうの

には、とてもがまんできなかつた。それでも学校のDセイセキはクラスでもトップのひとりだし、もう十歳になるんだ。十歳に！

「この地球がそんなに悪者ばかりなら、(c) なにしに来たんだい、ここに？」

「海にうつった月をじっくり観察したことある？」

またまたぼくの言っていることを無視して、かつてなことを言っている。

「わざわざぼくに、海にEハンシヤした月をよく見るように言いに来たのかい？」

「たぶん、そうかもしれない……。ぼくたちは宇宙に浮いているってことに気がついたことある？」

これを聞いて、もうはつきりとわかった。この子は夢の中で生きているんだ。自分を宇宙人だと思いこんでいるんだ。だから、さつきからいろいろへんなことばかり言うんだ。

⑤ ぼくはもう家に帰りたくなかつた。彼のバカらしいFクウソウを少しでも信じた自分はずかしかつた。ぼくをからかっていたんだ。宇宙人だつて……。おまけにぼくはそれをすっかり信じた！ 自分で自分が情けなくなり、彼にも自分に対してもはらが立つた。彼のはなづらに一発パンチをくらわしてやりたくなかつた。

「でも、どうして？ ぼくのはな、そんなに不格好かな？……」

全身が凍つたようになつた。ぞつとした。ぼくの考えていることがわかるんだ！ おそろおそろ彼の顔を見た。なにか勝ちほこつたようにほえんでいる。これはきつとなにかの偶然だと考えたかつた。負けたくはなかつた。ぼくのおどろきは知られたくない。

⑥ ひよつとすると、ほんとうかもしれない。

ひよつとしたら、人の心の中を読むことができる宇宙人も……。でも、もういちどためしてみないことには……。

「いま、ぼくはなにを考えていると思う？」

と言つて、たんじょう日のケーキを想像した。

「いままでためただけじゃ、まだじゅうぶんじゃなかつた？」

一歩もゆずるつもりはなかつた。

「ためしたつて、なんのこと？」

彼は足を投げ出し、ひじを岩の上について、やさしく言つた。

「ねえ、ペドウリート、もっと別の現実つてもがあるんだよ。きみの知らないもつとずっとデリケートな世界がね。せんさいな知性に近づくための、せんさいな入口が……。別のコミュニケーションというものがね……」

「なにが言いたいんだい？」

「いくつもの、ろうそくつけたやつ？……」

と彼はほえんで言つた。

はらに一発パンチをくらつたような感じだつた。泣きだしたい気分になつた。

自分のおろかさに気がついた。ぼくは彼にあやまつた。彼は少しも不快に思わなかつたらしく、とりあおうともせずただ笑つていただけだつた。

もうこれからは、(d) 彼をうたがわないと心にきめた。

(エンリケ・バリオス 『アミ 小さな宇宙人』より)

※出題の都合上、省略・改編した箇所があります。

〈設問〉

問一 〓 線部A・C・Fのカタカナを漢字に直しなさい。(ただし、楷書でていねいに書くこと)

問二 〓 線部B「彼は」は主語である。「彼は」の述語を次のア～ウの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 楽しそうに イ 笑つて ウ 言つた

問三 () 欄 a～dに入る語として、もつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選んで、それぞれ記号で答えなさい。

ア けつして イ じつと ウ わざわざ エ とても

問四 〓 線部①「どういうわけか、彼の言葉は、きみような効果をもたらした」とありますが、どんな効果ですか。もつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア ぼくに何百万、何千万もの宇宙の惑星を想像させて、その星に住んでいるすべての生き物は善良だと思わせる効果。
イ ぼくに何百万、何千万もの宇宙の星の住人を想像させて、彼が宇宙人かもしれないと思う恐怖心をとりのぞく効果。
ウ ぼくに何百万、何千万もの宇宙の星の住人を想像させて、彼が本当は地球の生き物なのではないかと思わせる効果。
エ ぼくに何百万、何千万もの宇宙の惑星を想像させて、その星に住んでいる多くの生き物のいのちを考えさせる効果。

問五 —— 線部②「ぼくの質問」とありますが、「ぼくの質問」を指す内容を~~~~線部Ⅰ～Ⅳから一つ選んで、記号で答えなさい。

問六 —— 線部③「そんなことは言っていないよ」とありますが、「そんなこと」とはどのようなことですか。もっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア いま見えている星が、百万年前のものであること。
- イ いま見えているあの星はもう存在していないこと。
- ウ 地球人だって、みんながみんな悪者じゃないこと。
- エ 地球のひとが、一人残らず悪人であるということ。

問七 —— 線部④「頭をふって彼の手をはらいのけた。ぼくを、まるでずっと年下のバカみたいにあつかうのには、とてもがまんできなかった」とありますが、「ぼく」のこのときの気持ちとして、もっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 同じ子どもの彼からバカにされているように感じて、怒りが収まらない気持ち。
- イ 同じ子どもの彼の能力の高さに驚かされ、あせる気持ちを抑えられない気持ち。
- ウ 同じ子どもの彼が、自分の言葉も覚えていないので、かわいそうに思う気持ち。
- エ 同じ子どもの彼に頭の中を見られているように感じ、こわくて仕方ない気持ち。

問八 —— 線部⑤「ぼくはもう家に帰りたくなかった」とありますが、「ぼく」のこのときの気持ちとして、もっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 彼の言葉から、彼が宇宙人であることが分かって、早くいろいろな人に彼を紹介したいと強く思う気持ち。
- イ 彼の言葉から、彼が夢の中で生きている子だと知り、家に帰ってお母さんに相談しなければと思う気持ち。
- ウ 彼の言葉をそのまま信じ込んで、彼が宇宙人であることを確信してしまい、急におそろしくなった気持ち。
- エ 彼の言葉をそのまま信じ込んで、彼を宇宙人だと思いこんだ自分にも腹が立ち、ばかばかしく思う気持ち。

問九 —— 線部⑥「ひよっとすると、ほんとうかもしれない」とありますが、なにが「ほんとうかもしれない」のですか。次の文の()に入る最も適切なことばを、十五字以内で書き抜きなさい。

彼は言葉にしなくても人の心の中を読むことができ、() ということ。

問十 本文中に述べられている内容と合っているものとして、もっともふさわしいものを次のア～オの中から二つ選んで記号で答えなさい。

- ア この文章は、ぼく、彼、ペドゥリートの三人の会話を中心となっている。
- イ 彼はぼくと同じくらいの年齢であり、二人の間には友情が芽生えている。
- ウ ぼくは最初、彼を宇宙人だと信じたが、最後は宇宙人だと信じていない。
- エ 彼が言うには、ほかの星のひとよりも地球のひとのほうが善良ではない。
- オ 彼は、ぼくが頭で考えている内容を言葉に出さず二回連続で的中させた。